宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊26番
定価 一年 送料共500円

神具、装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡支社 福岡市吉塚西林寺町 西林寺内
電話⑥⑤九四五六
本社 京都市下京区油小路通六条北入
電話 京都㉟ 六〇六六・一三三四番
七三三七・九七八九番

夏越祭を斎行

「思ふことみなつきねとて麻の葉を切りに切りても抜いつるかな」緑も清々しい茅の輪の中から古歌が流れてくる。七月三十一日夕刻、全国各地から、又郡中より寄せられた人形抜いを行う夏越祭が斎行された。

夏越は「みなづきはらえ」とも言われ、陰暦六月晦日に行う大祓のことである。中古は親王以下百官が大内裏の朱雀門において中臣が祝詞を奏して祭事を行なった。又「なごし」は神慮をやわらげる意味の「和し」であると言われる。

当日は、神門前に祭場を補設し紅白の人形を納めた唐櫃を前にして祭典は行われた。大祓詞を奏し人形を祓い切麻で身を祓う。次に古歌を奉唱しつつ、茅の輪を潜り拝殿に向う。一陣の涼風が過ぎて行き、夏の盛りの一時期を無事に過ごした感慨にひたる。拝殿では宮司、氏子会長と、夏越の祓いを無事に終らした奉告の玉串奉奠が行なわれる。それから一刻ののち人形は、神職の手によって江口の浜まで運ばれ、ここより玄海の荒潮に流される。人々の祈りをのせて人形は流れて行く。青海原に散りばめられた紅白の人形は次第に涯なく広がり、潮の八百会に流れ行き、凡ての罪穢は昇華する。

翌八月一日、二日午前十時、夏季大祭が斎行された。国家の繁栄民族の福祉を祈請する精神の営みは、絶ゆることなく築き上げられて行く。

笹の葉さらさら

大島のたなばたさま

八月七日は、大島中津宮恒例の七夕祭り。朝から家々の軒端には五色の短冊を飾った笹竹が浜風に揺れ、村中がお祭りに賑わった。

中津宮には、境内横を流れる「天の川」を挟んで、北に牽牛、南に織女の両末社が相対してまつられてあり、古くから、七夕祭りが盛大に行なわれている。むかしは若者は織女社に、乙女は牽牛社に七月一日より七日間参籠し、満願の七夕の宵、短冊に自分の名と、想う人の名とを別々に書いて天の川に流し、もし短冊が並んで流れれば夫婦の契りを神様がお許しになったと喜び、又、子供を持たぬ母は子宝を願って短冊を川に流すなどの風習があり、これは明治末期まで行われたという。現在は、こうした風習はないが、縁結びや、芸事の上達を願う人々の信仰は今尚続いている。

夕闇迫る頃、天の川のほとりに設けられた祭場で、厳かに祭典が執り行なわれ、参拝の人々も次第にふえて、境内は賑わいをみせてきた。人々は御初穂を入れた奉納袋を神前に供え、祭壇両側に立てられた笹竹に短冊や、着物を形どった千代細工を結えて参拝する。

やがて、青年団男女の七夕踊りが一の鳥居を中心に始まった。はじめは小さかった踊の輪も、小中学生や、見物の人達も加わって大きな輪になり、満天の星空の下、人々は昼間の暑さを忘れて、夏の一夜を踊り楽しんだ。

すゝきは呼ぶ

さわやかに風渡る原
待つは勇将義経公か
いやご遠慮あそばせ
涼し笑顔のおはなはん

どうぞお越し下され
哀れ雨情の歌もよし
すゝきの目は幻描く
その幻に祈りをこめて

論説

政治問題としての青少年対策

佐藤首相の諮問に対し、青少年問題審議会は先程意見をまとめて、茅誠司会長から答申書が提出された。「当面の青少年対策の重点」についての学識経験者の意見は、ゆるがせに出来ない具体策である。

然し、当面の他の重要問題である物価対策について、首相はその原因は判っている、今後はただ実行あるのみ、と言っているが、青少年対策も一国の政治責任者としてよく判っている筈で、審議会の具体策答申を待つまでもなく、実行あるのみであろう。政治的配慮から徒らに面倒な手続きを踏んだり、申訳的な名案募集をやったりするのは、糊塗か逃避かの不実行策とも見られる。実行あるのみと明言するなら、直ちに実行に着手するのみ。強力な推進を行政面に見せてもらうのみ。

対策の重点は、青少年の健全育成と非行防止にあることは明確だが、その基盤を家庭に求めている点もわかりきったことである。政治施策として最も考えなくてはならないのは、家庭の教育機能を現代の青少年の健全育成に適しない程度におくれさせている点である。いつの時代も家庭のしつけは、親の子に対する愛情が中心になって行われてきた。親の愛情に変化はないが、しつけを十分に行きとどいたものにすることが、政治であり社会開発の眼目である。

中でも共稼ぎ家庭の増加、住宅事情の悪条件などは家庭の教育効果を甚しく阻害している。保育施設を拡充するより、共稼ぎをせずに生活出来る方策、カギっ子のない母性の家庭復帰の施策が考えられなければならない。近代産業が生む住宅事情の悪条件も、早急強力に改善されなければならない。

これは家庭教育の責任者である両親を、正常なコースへ奪回することであり、倫理的牽引力の家庭への集結である。如何にこの問題を行政に反映させるかが、家庭を青少年の健全育成の基盤たらしめる急務である。

次は学校に於ける道徳教育の振興であるが、これは教師の教育者復帰、聖職者復活が先決問題である。教師は勿論聖者ではないが、神聖な人づくりの大義に生きる聖職である。知識技能を売って報酬を求める商人でも労働者でもない。教育の場こそ聖なる領域であるとの覚醒が先決である。

世上論議させる道徳教育は、万能薬ではなく、教師と学徒との暖い人間関係の確立が必要なことと言う。その暖い血の通った人間関係こそ、道への指導であり徳の培養であって、聖職の精神はここにある。単に近代の教育観のみが教師と学ぶ者との人間関係の確立を望んでいるのでなく、古い時代の所謂寺小屋教育にもその精神は生きていた。その顕著な例を松下村塾に見ることが出来る。

行政面の学校対策としては、学校教育を正常化して、教師が血の通った指導に専念し得るような環境や体制を作ることである。一面学校対策以前の課題として、良き教育者を養成することも当面の急務で、道徳教育の成果を挙げる根源を検討しなければならない。

青少年問題審議会の答申の中に、青少年が次代を担うものとして、誇りと責任を自覚し、輝かしい未来を自ら開き、希望に満ちて生きることを目標とし、諸施策の遂行に努力すべきを強調している。青少年が希望に満ちた生き方の出来るような環境を作ることが、政治の責任という結論になる。

青少年に希望を持たせる社会環境を作って、次代の担い手としての理想を知らしめる前に、国民の指導者は自ら「襟を正す」反省が要望される。最近曝露された某代議士の長年に亘る重なる悪業、青年学徒等の批判はまことに厳しい。以前から政治家仲間にも、検察当局にも知れ渡っているのに、代議士という地位、頭数を重んずる政党に遠慮してか看過してきている。まるで暴力団頭目の振舞である。これを抱いている政党が襟を正すなどナンセンスだと、冷笑する学生もいる。

青年達はなお笑って語る。佐藤首相が国民にエイチャンと呼ばれたいと、アンチャン歌手が言いそうなことを、週刊誌に語っているが、くだけた人気の出る顔でもないし、幼稚な願いである。青少年が身の上相談を寄せて、一々親切な返事をかえしている森繁久弥のおぢさん等の方が、はるかに優れた親切な指導者であると。

最も大切な政治の眼目である青少年の健全育成の問題は、単なる選挙対策や政権保持の人気取り善処とは、明確に切り離して、政治家の良心と指導者の愛情に終始してもらいたいものである。

阿蒙少言

歴史は実に疑わしいものだと、鈴木大拙師は生前その信実性を否定されたが、歴史は小説と云えると評する人もある。文献その他の資料は、如何に考証がゆきとどいても、資料に人間の心の信実が遺されているとは断定し難い。歴史の、科学的研究にも限界がある。眼光紙背に通っても、古文書記録の内容には、それを書いた者、書かせた者の都合で、事実と異る作為がないとは云えない。比較的信実性のある資料は宗教的芸術品かも知れない。信仰を偽わる労作は滅多になかろう。〇横浜のライフル銃事件の少年の場合。その手記や、供述が真に誇張も作為もない心を語っていると思えぬ節がある。現在生きている人々の歴史が、既に疑がわしい。ましてや政治的意図を以って書かれたものなど、鵜呑みに出来ようか。危いものだ〇お役所仕事の報告書なども、ご都合でツジツマを合わせた嘘が多い。現地に行きもしないで視察となり、饗応酒に悦に入ると成績良好となる。そんな報告書が基礎になって統計や、資料が綴られると、これが事実を的確に伝えた歴史となるのだろう〇心の歴史は綴り難い。諸方に養老育児の福祉施設が完備される世の中になったことは結構だが、そこに勤める人達が単なるサラリーマンでは精神面の効果はあがらない。養老院を訪ねると、院長や、主事の状況説明は概ね結構でも、老人達は幸福そうには見られない。元来が人生行路の苦難を重ねて、口体を公費で養なわれる肉体の安住の地をここに求めること自体が、既に不幸な運命にある。肉体は養なわれて安任していても、心は放浪している。養老院を放老院にしない方途は、信仰以外に求められまい。これは難問だ。(白雲)

第六十四回 宗像大社献詠歌会詠草

八月七日 於社務所詠草到着順

遠賀 長畑 房江
人歩む足の運びを手鏡に写して見居り二十年歩まず

吉武 原田 リノ
あと少し見れば完となるドラマ心おししも人の訪ひ来て

福間 森 八蔵
照り続づく暑さに四方の夏霞み自動車はしる釣川の土手

大井 木原ふさ子
純白に夕匂ひし花梔子幼く逝きし義弟偲ぶも

宮田 片山 朔子
俄雨ふるらし土用の蒸す夕に幾日来の瓜漬け終る

田熊 小野 花居
青い実の富有の柿鈴なりに炎暑照り映え秋待つ日々越

田熊 小野角次郎
蜩を朝夕に神の社幽に見て狭霧棚引く

福岡 高橋 老生
吾が七十才台も後半歳となりにけり腹八合にして箸を措かまし

村山田 吉田佐市郎
腰曲り杖を頼りの吾が歩行自転車ふめば颯爽と行く

勝浦 永島 計七
キャンパーの食い散らしたる跡を見て世相慨くも甲斐なきものか

厚狭 篠田 南洞
帰宅して社宅の狭庭の茄子胡瓜見廻りおれば母も出て来ぬ

飯塚 萩本 夕照
風鈴のかそけき音に暁のかぜを賞でつつ歌書を読みつぐ

宗像 伊規須ゆき
ひとゝころ雲切れてさす陽の光り山の中腹を照らしてゐたり

田島 白雲 山人
長旅のつかれいたはり背を流す児とふたり居て夏のいで湯に

大島 越智 治子
かそけくも水引草のくれないの青磁のつぼに映ゆるこの朝

大濠 江崎 琴子
禁猟区犯して釣り人あまたなる白鳥守るの標示の前に

コロラド 浦野 薫
(白鳥愛に思ふことを)
異国にみ仏まつる盆踊り揃いの浴衣暫し続くも

名島 久保 房江
試合終へきびしき面輪やわらぎて今宵夕顔かぞえゐる吾子

大井 村山 幸生
豪雨去りつかれしからだむちうちて稲田に積る砂利取り除く

津屋崎 麦野 時雄
夏なかば青葉のみなる裏庭に一きわ目立つ花桐の赤

吉留 白木うめの
大雨すぎ土砂に埋まりし田に立てり過去幾度か受けしかなしみ

福間 井原 元彦
ママ早く帰らんかなアーとさびしがる産後を留守の孫いとしかり

宗像 北原きみ子
公園のあした静かに露おきてブランコに高校生一人本読む

宗像 有吉 春子
夾竹桃静かに咲ける真昼時蝉取る子等の声遠く聞ゆ

福岡 林 まつえ
吾が家の小さき池をめぐり止まぬ金魚にも似て老を佗しむ

吉田 占部 由久
空に咲く花火さま〲美しく海開きとて浜辺賑はふ

深田 中野 節子
たまたまに土手の上より見し家は軒端に古き梔子を下ぐ

武丸 立石 昇
夏の陽に向ひて咲ける向日葵は強く逞くまし情熱の花

武丸 立石ろせの
水打ちてすがしき夕べ鉢植の今朝咲きそめし浜木綿匂ふ

大井 安部 重郎
青田吹く風さやさやと山の端に月のぼり初め望にてあらむか

大井 安部 静子
七寸に余る大輪のヒビスカス夫を呼び来て眺めし朝

大井 吉田 和子
ヒビスカス一日終れば花びらをひそと閉じるあはれはかなし

大井 吉田 杏子
くれないと白の二色ヒビスカス咲きてゆたけき朝の小庭辺

福岡 高橋 昇翁
安部先生を「核」とし集る同窓の六十四年にして三つ一となりぬる

(三頁へつづく)

宗像談話室　迷走台風

現代の大衆はスピード感を好む。「汽笛一声新橋をはやわが汽車は離れたり……」と歌って、新橋横浜間に始めて走った陸蒸汽の時代から見ると、今日の列車は相当早いものに進歩したが、それでも新幹線などの超特急が出現すると、普通列車は鈍行列車の別名がつけられて格下げとなっている。超音速の旅客機が、東京モスコー間を十餘時間で飛ぶようになってきては、大衆は走るスピード感に満足せず、飛ぶスピード感に魅せられる。ここに地上を飛ぶ雷族が危険視されたのは大分前のこと、巷に氾濫して交通事故の統計上昇に、大きな貢献（?）をしているマイカー族の暴走氏には、迷走台風の尊称でも献上しなければなるまい。

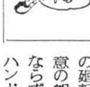
田植頃には農村風景も著しく変った。田植え加勢の人数は、早朝何台かの自家用車が集めて廻り、夕方は各部落を巡って家の入口までこの人達を送り届ける。一服する時の飲み物はコーラ、勿論食事も車で現地に持ち込む。既にこうなると猫も杓子も自家用車、などの表現はもう古い。冷蔵庫洗濯器についで家庭の必需品となった。もう贅沢品じゃない。嫁入り道具にかぞえられ、車庫のない家には嫁側から事前に車庫の建設が要望される。

ご多聞に洩れず、比較的保守色の強い職場でも、集団入学の申込書が自動車学校に出された。女子を交えて十数名、毎夜の如くハンドル修業一カ月。実技試験免除だが教師の指導は厳しい。不思議なことは大学出の男性に卒業延期、再試験が何名かあって食堂漫談の特ダネを提供し、高校出の女性は悉く無条件パス。

運動神経は女性の方が敏感なのだろうか。それとも昼間男性の方が難しい職務に熱中して、夜間疲労が倍増、反射神経が居眠りをしたためだろうか。

戦争中聞かされた話。小銃の射撃は文化程度の高い兵士が下手で、野蛮人が命中率がよい。ゲリラ戦で狙撃のうまい敵は、学識なく未開の民族だと結論づけて、当らない大砲や銃器の前で、ひそかに胸を張った想い出がある。

落第氏諸君はこの例にならうと、安心してよかろう。然しそれは学校内の練習コースだけの安心で、交通戦争と云われる国道に出ては、文化程度も通用しないし、万一迷走台風に変じては平素の高度の職務内容も弁解の材料にはならない。



結局頭の廻転が意の如くならず、ハンドル操作やブレーキ制動が脳味噌の命令を忠実迅速に厳守し得ないと、骨のズイまで悟ったら運転免許と同時に人間修練学校の合格書を与えてもよい。

どうやら多額の学費を使った手前、よくネバって全員免許保持者となった。これからが大変。中ブル、超中ブル、珍車と思いくのの車が無理算段の結納金を仲人ならぬセールスマンに渡されて嫁入り。愛妻ならぬ愛車の手入れに、いづれもご満悦の態。先ずはめでたし。

めでたくないのは愛車がヨチヨチ歩きを始めてから以後。手入れ姿はいくら油まみれになっても、心配はないがヨチヨチが小走り大走りに変じてくると、一人前になるまで相当の年期と頭脳修練が必要となって、今日もやっと無事だったと、スピード感に興味のない老骨を毎日小きざみに安心させてくれる。

「君、パトカーに追突するなんて聞いたことがないぞ」パトカーから降りた警官は、後部にぶちつけた車を叱った。警官も聞いたことはあるまいが、追突氏も世界交通事故史上まれな珍事をやったと思った。

「これは失礼、ボク太平洋沿岸を通過する迷走台風を心配しながら運転していたものですから」。

× × ×

盛大な海上神幸に！
―残暑のなかで実行打合会―

去る八月二十六日、午前十時より当社斎館に於て本年度の秋季大祭海上神幸実行打合会が行われた。

参会者は、郡内七浦各漁協組合長及び水難救済会役員で概要次の様な決定をみた。

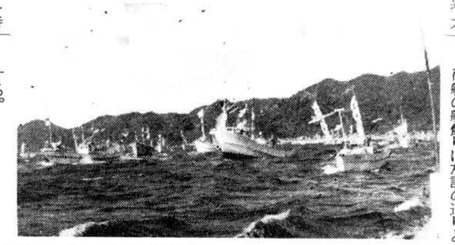
昭和四十一年海上神幸次第

一、九月中旬神職沖津宮に出向、御神璽を中津宮に奉遷

一、十月一日沖中両宮御神璽は中津宮を出御、船団編成の后御座船二隻に御分乗の上九時三〇分御出発大島港より神湊港まで海上神幸の神事を斎行する。

一、沖中両宮御神璽は午前十一時神湊に御上陸、頓宮に於て三宮御揃いの上神湊頓宮祭が斎行される。

一、御座船、先導船、供奉船、随行船の船飾りは左記の通りとする。



イ、御座船には浪切御幣、紅白の御長手（おんながて）四旒、御座船旗二旒、社旗「国家鎮護宗像大社」一幟をかかげる

ロ、先導船には浪切御幣、紅白の御長手四旒、先導船旗をつける。

ハ、供奉船には浪切御幣、紅白の御長手四旒をつける。

ニ、随行船には浪切御幣をつけ満船飾とする。

以上が要点であるが、これに附随した興味ある話題がある。

御座船

毎年御座船はその年の最新造船の中から選定しているが、毎年希望者多数のため海洋神事奉賛会がこの選定を行っている、関係者の話によれば「この選定には一番頭をなやまします」とのことであった。

御座船状

この栄ある御座船に対して本年より御座船状を贈りその功績を永く記念することになった。過去四年間の各御座船は何れも劣らず、漁獲量がずばぬけて多く、宗像大神の御神威を目のあたりにして七浦漁民羨望の的となっている為早くも此の御座船状のことは衆目の的となっている、この御座船状の贈呈式は十月一日神湊頓宮祭に於て行われることとなっている。

神湊御駐輦

亦今年より斎行される辺津宮御神璽の神湊一夜御駐輦の神事は、神湊区民の大きい協賛により盛大な祭典となる予定である、この神湊には従来神賑いがなかった為区民の念願とも合致し、将来はより広くこの日を「神湊みなと祭」とする計画が着々と進められている、この様に祭典が地元民の精神的中心となることは非常に意義あることと言えよう。

会員バス

海上神幸は復興して今年で五年目になるがその規模は年を追って壮大となり昨年の奉仕船は三百数十隻の多きに達した。今や日本最大の祭典となっている。この盛事を拝観するため西日本鉄道では今年は九州全域にわたり会員を募集し会員バスを繰り出すことになった。

かにかくに「国家鎮護宗像大社」の大幟が紺碧の玄海洋上に大きくはためき大船団が沖中両宮御神璽を奉戴し波涛をけたてて大ページエントをくりひろげる日は目前に迫っている。これが恙なく斎行されるよう大社ではこの諸準備に総力を結集してあたっている。

九月のまつり

九月一日　風鎮祭　午前十時

かぜしずめのまつり。この時期は農作物にとって最も重要な時である。稲の結実前に暴風、その他の被害がないように祈願を行うまつりである。

二百十日の台風シーズンにあたって風を鎮める祭りが各地方によってそれぞれの所で行なわれている。当社の風鎮祭に地元農家のものはお籠りをして、この祭典に参列をする。

このようにわが国の民間習俗として神に祈る風習が今日各地で行なわれている。

十五日　月次祭　午前十時

廿一日　宮地嶽神社大祭

旧摂社宮地嶽神社の秋季大祭当宮より職員が献幣する。

廿四日　秋分祭　午前十時

―皇霊殿遥拝式―

春分祭に対してこの時期に行なわれる旧制国祭日秋季皇霊祭である。宮中皇霊殿では、天皇親から歴代の天皇の皇霊をまつる祭儀が行なわれていた。当社では宮司以下全職員によって皇霊殿遥拝式が行なわれる。

この日は彼岸の中日にあたる、盆祭りとあわせて、わが国では三度の祖霊をまつる大事な機会である。

九月の交通訓

○交通事故絶やすあなたの注意力

玄海小学校竣工祭斎行さる

玄海小学校竣工祭は七月二十九日、真昼の太陽に照り映ゆる銀傘の新校舎に於て盛大に執行された。

当日、当大社、宗像、城戸両権祢宜奉仕の下に、修祓、祝詞、引続き一階正面玄関より始めて、各教室、屋上バルコニーに至るまで限なく清祓の儀が斎行され、大森町長以下参列者の玉串が奉奠された。

この新校舎は、宗像大社より北西一粁の神湊に向う県道の右側の小高い丘にあり、田舎には珍しいモダンな鉄筋三階建で、特に現場教師の意見が豊富に取り入れられ太平工業KKの施工により総工費約八千万円を以て完成したものである。

この地区は、農業を主体として旧田島村と、漁業を中心とした旧神湊町とで形成され、各々の小学校は近年人口の都市集中化と産児制限の酷しい現実には勝てず、児童数も年々減少するばかりで、遂に九十年の歴史と伝統をほこる田島小学校、神湊小学校は合併、今度待望の新校舎が完成し、八月の引越しを終り、九月の新学期を待つばかりになっている。尚、継続事業として体育館の地鎮祭を終って居り来年完成の暁には、更に立派な玄海小学校として威容を示すものと期待されている。

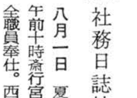
大映　藤村志保　等が参拝

去る八月十日、大映女優藤村志保他、関係者多数が参拝した。

大映映画「大魔神」の完成を記念して観客に交通安全のお守りを配りたいとの事で、全日お守り八万個の御祓いが行われた。

交通安全の守護神として、全国に有名と案内者から聞き「私に事故がありませんように」と深く頭を下げていた。

社務日誌抄



八月一日　夏季大祭午前十時斎行宮司以下全職員奉仕。西鉄楠根社長参拝。

二日　夏季大祭二日祭午前十時斎行。例年によって、交通安全祈願車多し

七日　千葉大学、萩原浅男氏来社。

八日　久保宮司午後三時、沖津宮奉仕の為出発。

九日　宗像警察署長外十九名武道試合必勝祈願祭を斎行。

十日　国学院大学、佐藤教授他二名参拝、太宰府天満宮、木本権祢宜案内にて皇学館実習生四名来社。

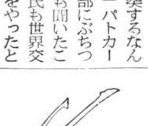
一三日　西銀福間支店長新旧交替挨拶の為来社。

一七日　沖津宮勤務中の久保宮司、佐藤出仕と交替し、中津宮まで帰社、神湊、上野古墳に葦津権宮司、本多権祢宜出張す。

一八日　久保宮司沖津宮より帰社。井上団平氏、阿弥陀経石調査の為来社。海上自衛隊佐世保地方総監海将、古館早磨氏参拝。

二十日　国学院大学大場教授外二名来社

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社　大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話　宗像局2027番　有線277−1



宗像四郎氏貞（三十九）

山下半可　作
福田長庵　画

厳島合戦　㈢

陶入道が九月二十三日の夜半の夢に、山田の怨霊に滅亡を告げられてから、四五日経った。宮尾城の堀は陶軍の手によって殆んど埋め立てられた。今や陥落は目前であった。城中の己斐豊後守と、新里宮内少輔は気が気ではなかった。対岸には毛利軍の待機しているのが見える。毛利軍が上陸しさえすれば、陶軍は板ばさみになる理屈である。しかし、毛利軍を渡すべき船が無い。村上の水軍は何をしているのか。間に合わないのではないか。

この思いは元就にとっても同じ事であった。

二十八日、宮尾城に狼火が上った。

見よ、東南の海上に数百艘の軍船がまっしぐらに進んで来るのが見えるではないか。

近づく、近づく。やがて威風あたりを圧して船団が到着した。

元就の本陣に小早川隆景が馳けつけた。戦機は毛利軍のものとなった。士気が俄に高揚したことは云う迄もなかった。

村上水軍の幹部をも混えて、其の日は上陸作戦計画が練られた。その夜から空模様があやしくなった。やがて夜半から嵐となった。

二十九日、その嵐の中を元就の本陣から伝令が飛んだ。全軍の装具、糧食、行動に至る迄、こまごまとした指示が与えられた。

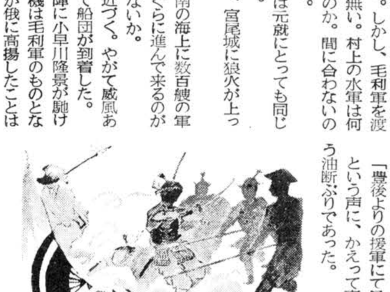
明くれば晦日。瀬戸内の海上は荒れていた。海上で世すぎをする漁船一艘すらも見えなかった。余程の者でもこの荒海を乗り切ることは無謀と思われた。陶軍にも油断があった。荒天のうちは毛利軍は動けないだろうと、予想していた。この予想というものほど、いい加減なものは無い。

その日、毛利軍は万端の準備を終った。夜が来た。元就の意志は強固であった。判断に狂いは無かった。

同夜、作戦決行の命令が発せられた。風雨の暗夜を元就の本隊は宮島の東裏手の包ゲ浦に上陸を敢行した。一方、三男隆景の一隊は熊谷信直らを率いて最短距離を目指した。すなわち、厳島神社に向かったのである。ここは陶軍の中央部であった。敵も、まさか毛利軍が中央線を突破して来るなどとは誰も考え及ばなかった。不意に現われた軍船をあやしむどころか、

「豊後よりの援軍にて候」

という声に、かえって喜ぶという油断ぶりであった。



二百余隻の軍船が一時に行動したのだから、まさか相当の物音がした筈である。その物音も夜嵐の中に吸い込まれていた。

隆景は、敵に発見されて合戦が始まってもいいと思っていた。隆景軍が敵の本陣近くで時を稼いでいる間に、父の元就軍が陶の背後を衝く筈であったからだ。

隆景軍は穏密の裡に上陸に成功し、陶の本陣である塔岡の坂下に布陣した。

渡海作戦は午後十時頃に始められ、毛利軍の本隊と支隊が呼応して突撃を敢行する時間が近づいた時は、早や夜も白む頃であった。

夜中の行軍を続けた元就軍は、丁度その頃に陶の本陣を見下す所に位置していた。

十月一日の暁方、元就軍は一どきに鬨の声をあげて突込んだ。塔岡の坂下の隆景軍も鬨を合わせて突き進んだ。

暴風雨をたのんで警戒を怠り、夢未だ醒めやらぬ陶の大軍は挟撃されて完全に虚をつかれた。慌てふためく将兵らは心の準備が何も無かった。戦意の無い者が何万集まっても、それは何にもならない。唯、逃げ惑うばかりであった。

またたく間に陶の本陣が陥落した。陶軍は神社の裏手を迂回して西方に潰走した。この本隊の逃げるのを助けたものが弘中三河守であった。三河守の働きによって陶は漸く大元浦に辿り着くことが出来た。この間に陶の軍勢は、或いは山中に入り、或いは船を奪い合って海上に逃げた。しかし、山中に逃げた者らは、ことごとに討死し、海上に逃げた者らは、乗員超過のために沈没し、又は能島、来島、村上などの水軍衆に討果されてしまった。

弘中三河守は大将の逃げ落ちたのを見極めると、手勢をまとめて吉川元春の軍勢に突込み、消えてしまった。その前に、三河守の兵士らが町家に放火した。吉川勢は弘中勢と戦う一方、消火につとめた。神前での合戦に、兵火は恐れ多しとの配慮からであった。

そうこうしているうちに、三浦越中守らに助けられて、落ち延びた陶入道は船を探したが、一隻も見つからなかった。

高安ケ原が入道の最後の所となった。辞世の歌がよまれた。

何を惜しみ何を恨みんもとよりもこの有様の定まれる身に

入道の割腹には宮川市允という者が介錯をした。従っていた伊香賀、垣並、山崎らも同時に切腹した。

勝敗は兵家の常、とはいえ、二万七千の大軍が僅か三千余りの軍勢のために潰滅したというような戦争は他に例が無い。天は毛利に幸いし、陶にはくみしなかった。神は必ず悪逆を退け給うたのである。

（つづく）

活気みなぎる神湊

—夏の海水浴から秋の味覚へ—

去る三十九年十月十八日夕刻、折からの強風に煽られて、たちまちの内に三十二軒もの全焼被災家屋を出し、一夜にして生魚料理の名所と云う看板を降して以来 宗像郡玄海町神湊の街は長く悲しみの中に明け暮れた。

それから約二年、今日の神湊にこの悲しみの面影を見出す事は出来ない、新しく建ち並ぶ鉄筋コンクリートの豪華な旅館、その数も当時に比べて約三倍の三十軒余、県道玄海神湊線は車の往来でひっきりなしである。この盛況に県としてもいよいよ本年より本格的な舗装にとりかかり、埃りをたてずに神湊に行くべく夢を実現させるとの事である。わけても本年夏の海水浴客の多い事は特筆される。一月前から予約を申し込んでも旅館の宿泊を求める事は出来ない。しかたなしに海辺の松林にはテント村が林立する、旅館業者はサービスと実益をかねて有料駐車場を空地に開設する、それでも収容出来得ぬ車が空地をさがして右往左往する有様である、本年の海水浴客の特色は家族づれの多い事であろう。他の海水浴場の様にはでな色取りの若者の群は見出す事が出来ぬ、皆車で乗り込むレジャーをかねた子供連れの落ちついた雰囲気である。

かくして夏が去り、神湊は秋の味覚を供する街に一変する。

海の幸がひとしお味いを増し、食欲の候ともなれば、福博、北九州の各地から新鮮、低廉な魚料理をしたってどっとくり込む団体客がひきもきらず、各旅館は満員となる。

「宗像大社に参拝して神湊で舌つづみを打つこのコースは仲々いかしますよ」

毎年参拝される或るセールスマンの実感こもる言葉であった。

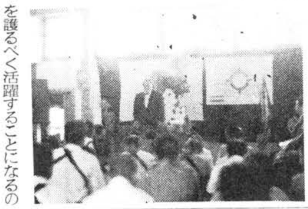
今月、国道三号線から、当大社神湊線は舗装が始り、数年後は今迄の悪路と埃の不評を返上出来る計画との事である。

神湊は夏の海水浴から食欲の秋へ、其の準備に大わらわである。

大島救難所に 新救助船〝初栄丸〟が就航

この夏 大島村公民館にかて、日本水難救済会大島救難所救助船〝初栄丸〟の進水式が盛大に執り行なわれた。従来、大島救難所の救助船は大島渡海船第二弁天丸がその任に当っていたが、老朽化してきたので、これにかわる新船建造の声が起り、日本水難救済会より百万円、福岡県より五十万円の補助を受け、総額四百数十万の費用で、新救助船〝初栄丸〟が建造され、ここに晴れの進水の日を迎えたのである。

この日、斎場には村外より福岡県知事代理、日本水難救済会福岡県支部長、宗像警察署長、七浦各救難所長、及び監督、又、村内からは大島村長、大島救難所長以下所員、その他関係者多数参列し、午前十一時、厳粛裡に式典が開始された。神事のあと、丸徳造船所に感謝状贈呈、船旗の授与、来賓の祝辞 祝電披露と続き、盛大裡に終了した。今後、〝初栄丸〟は平常は漁船として就業し、ひとたび、水難発生の場合は救助船として、尊い人命を救い、貴重な財貨を護るべく活躍することになるのである。



近年、大島周辺海域での水難事件は非常に少ないが、名にしおう玄海の荒海のこと、いつ、いかなる事故が発生するかも知れない。こうした一朝有事のときに備えて大島の漁業者からなる五十数名の救難所員が編成されているが、この存在は、山の遭難救助隊のはなやかさに比し、地味で、一般にはあまり知られていない。しかし、山の場合にくらべて洋上での救助活動は危険性も大きく、又、出費も多大である。しかも、それに対する報償は殆んど無く、ただ所員の純なる使命感によって支えられている現状である。こうした人々の献身的奉仕に甘えることなく、何らかの報償制度が確立さるべく、その立法化の一日も早い実現が望まれている。

ともあれ、新救助船〝初栄丸〟の就航により、大島救難所の機能は一段と強化されたわけであり、今後の活躍に人々の大きな期待がよせられている。

宗像大社宝物館 宝物を訪ねて

神鏡の巻 (二)

（国宝）変形方角四神鏡（へんけいほうかくししんきょう）

この鏡は、前号に紹介した鏡に次ぐ大きさを持ち、縁より中央へ向け二カ所の亀裂が生じ、緑色の銹に覆れている。この鏡は特に半円と四角の文様帯、その外輪に三角突起帯を鋳出しているのが大きな特徴である。半円は内行し、内に雲形文を刻み、方形格内は複線で四区分しているに過ぎない。T・L・Vの字形（方格規矩）の幅は、前号で述べた鏡より狭い乍ら虎、鳥等の図象は同様である。さらに文様構成の基本線たる方格の対角線がこの鏡に良く残っている。中心の方格内の図象は、乳文のみであり、これは紐を付ける鈕（チュウ）（つまみ）の部分を大きく見せている。

この鏡は、一見まとまりのない散漫な構図である。この散漫に見える原因は、全体のまとまりを考えないで、無理に大きな鏡を作ろうとしたところにあるようである。幅広い素文の平縁といい、二列の鋸歯文といい、どちらも全体をしめくくる役割を果すよりも、散漫となす役割を演じているし、三角突起帯と半円形方形帯も方格規矩文とそぐわないどころか、むしろ主文をおさえている。中国製の方格規矩鏡には、三角突起や半円方形帯を配するものは見られず、神獣鏡に見受けられる。これは仿製に際して神獣鏡の図象を複合したものであろう。この複合は、中国鏡が鏡式それぞれに、ゆるぎのない構成美を示した点を理解し得なかった為に生れた凡作の鏡と云えよう。

又この鏡で磨かれているのは、縁の素文帯から第二鋸歯文帯までと、鈕の部分で他は磨かれていない。鏡の作製に使用した工具は、乳文用一個、鋸歯文用一個、線描用一個、さしがね、珠文用一個の計六個が使用されたと考えられる。

寸法

径 二六、二センチ
縁厚 六、八センチ
鈕高 一、六センチ
鈕径 三、九センチ
重量 一、五グラム

「上野（あがの）古墳」発掘調査

去る八月十七日より二十四日までの一週間にわたり宗像郡玄海町神湊古墳群の発掘調査が福岡県史跡調査会（会長長沼賢海氏）により始まった。調査会一行は九大考古学研究室を中心に福高森教諭、九大小田富士雄助手をリーダーに福高、香椎高、宗像高校の考古学部員数拾名が参加した。

現場は神湊から勝浦にいたる県道から北寄りに入りこんだ地点で三十九年森氏が神湊から津屋崎町須多田までの間にかっての宗像豪族のものと思われる十六基の前方後円墳があるのを発見された。これらの発掘はこの古墳群のうちもっとも古いと見られる〝上野（あがの）古墳一基だけを対象に行われた。これは、さいきん観光ブームで旅館、ホテルなどがぞくぞく建ち並んでいる現状から、古墳群が荒らされるのを防ぐために今度の調査となったものである。

上野古墳は全長四十五メートル、五百平方メートルの広さで前方部が台形で後円部から独立している。四世紀後半から五世紀前半のものと推定されたが、発掘が進むにつれて六世紀ごろの横穴式円墳である事が判明した。発掘された石室は幅一メートル、長さ三、五メートル、深さ一、五メートルの単室で墳墓の斜面には高さ四メートルにわたって人頭大の石を積み上げて流土防止がされていた。又副葬品はヨロイ（横板ビョウ止め短甲）鉄刀、鉄剣の各砕片、ガラス小玉二十個、又墳墓の周辺からこわれた須恵器のツボが三メートル間隔に三個出た。しかし残念な事に古い時代、盗掘された形跡があり、調査班の人々をがっかりさせた。森氏は盗掘とは別に、この時代の古墳の発掘は数少ないので、学界にとっては貴重な資料になります」と云っておられた。又、十六基全部の古墳実測もやりたいとの意向であった。

境内老樹を天然記念物に

—宗像町八所神社—

宗像町吉留に鎮座する八所神社境内約五丁歩には、樹令数百年を数える樫、タブ、椎、楠等の常緑闊葉樹林が原生しているが、なかでもいちい樫五十余本が古く、直径四米乃至五米に及び、この地方には珍らしい林相をなしている。

この度、県天然記念物に指定された。

話題の新車をみる (二)

ダットサンサニーの巻

販売前に車名公募を行い八五〇万通という史上空前の応募があった車である。

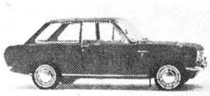
それだけに市場に出る迄、この自動車に対する期待は大きく、発売当初は良否様々の議論を呼んだ。しかし其後、生産も順調に伸び、一〇〇〇ccクラスの本格的なコンパクトファミリーカーとして、素晴しい人気を呼んでいる。

同じクラスの車と比較してみると、サニー独特の特徴がいくつかある。

一、最少回転半径が四メートルでこのクラスでは一番小廻りがきくのでハンドルの切れの良さは軽自動車なみである。

一、馬力当りの重量が一一、二Kgで他の車より非常に軽く出来ているので、出足もよく、燃料消費率が少ない。

一、最高速度、一三五Kmでこのクラス最大である。この他、メーカーとしては様々の特徴を宣伝しているが主要諸元の中であきらかに他車と比較した場合の特徴は以上三点であろう。



次に自動車の生命とも云えるスタイルであるが、メーカーは、若々しい美しさ、小粋な魅力、スピード感と簡潔さ、明るさ、さわやかさなど、サニー（太陽がいっぱい）の名称にふさわしい表現をしている。さて読者はこの表現に対しどうお考えでしょうか。

最後に価格の点であるが、東京渡しで、スタンダードが四一万円、デラックスが四七万円であり、軽自動車なみの価格で、大衆乗用車を売出したことは賞賛に価する。結論として考えられるのは、四一万円という安い価格の割には、良い車であり、需要家の要望にこたえるべく、努力がなされた自動車であると云えよう。

新築完成
—玄海の味・生魚料理—
みなと荘
宗像郡玄海町神湊
電話 神湊 56番

宗像伝説 其の六十四

捨子禁制と勝浦村の大庄屋

捨子禁制の令は早くから布かれ、細民の産子を養育し難い者には、いくらかの救米を下されることになっていた。

しかし凶作が何年も続くと、生活が困難な貧民の間には、ひそかに法を犯して、堕胎や、捨子をする者がいた。

勝浦村の大庄屋、永島半五郎の祖父忍照は、これらの悪習を非常になげき、人道上の問題として、これら、細民のために、産子養育料の永代救助法を創始した。半五郎の父半兵衛は、父の志を継ぎ、更にその子、半五郎も代々の志を継いで親子三代にわたり、捨子救済に一生を捧げたのである。

勝浦村は宗像北郷にあり半農半漁の風光明媚な村であり、万葉の昔から上京する通路になっていた。村の背には名児山という山があり、万葉集巻六には、大伴坂上郎女が作れる左記の有名な歌がある。

大汝（おおなむち） 少彦名（すくなひこな）の神こそは
名づけそめけむ 名のみを
名児山と負ひて 吾が恋の
千重の一重も慰めなくに

このように、のどかな村であったが、良田が多い土地ではなく、細民の生活は言語に絶するものがあった。親が子を捨てるなど、普通では考えられないが、凶年、旱魃が数年続けば、これらの人々は大飢饉と飢餓の悲惨な試練を受けねばならぬ。こうなれば、一片の捨子禁制令などはなんの役にも立たない。

半五郎は憂い、頭をいためた。安永六年、彼は近村の人々を集め談合をした。

「いかなることがあっても、犬畜生にも劣る捨子だけはやめよう」と人のなすべき道を得々と説いた。その結果、出産の時には、貧富にかかわらず、産衣一枚宛を贈ることにした。

かくして施行以来、贈与した産衣の数が二百四十枚にも及ぶようになったが、半五郎は自分の子孫に至って、この父祖伝来の美徳である産子養育事業がたえるようなことがあってはならないと、その子半兵衛と相談していろいろ研究を重ねた。

その後、父子共に力を合わせ、自力で江口村の下古川跡の地四町五畝二十歩を耕作し、藩庁の許を得て、その徳米の三分の一を、村々の養育料に永代差出すことにした。

藩庁では、忍照以来、相伝の善行を賞して、その作畝数三反、永代作り取にすべき旨を命ぜられ、また御館に年始の礼に出仕することも許された。

半五郎はこれに感泣して、更に一作の餘米、悉くを産子養育料にあてることを願い出て、寛政十年九月、その許可を得て、これを施したということである。

後年には村中が永島一家を助けて耕作し、この養育制度は永く続いたと云う事である。

×　×　×

となり村、神湊の豪家（丸二屋）永島三之丞が代々相継いで、貧民の救助と孝養にその名を知られたのに対し、この勝浦村の豪家（甘住屋）永島五郎一家が代々産子養育を相続家憲としたのは、善行家門双璧として嘆称すべきであろう。

×　×　×

町村往来

◇玄海町ジュニアリーダー講習会…4から6日まで同町地島で野外活動の講習。

◇宗像スイカの品質調査…郡内各地でつくっている七品種のスイカを集め、郡そ菜技術者連盟が3日 東郷農協で甘さ、水分肉質などを検査した。

（西日本新聞より）

（一面よりつづく）

宮田　片山　一
高千穂に来て神代の風は吹く天の岩戸の歯朶の古葉に

（高千穂に来て）

名残　竹原　圓
刺されたる指は疼けど地に落し蜂の動きをじっと見つむる

戸畑　田中　桂一
包囲され部下の将兵従わず夢より醒めて今朝有難し

戸畑　田中ハツセ
一度はモンペに変へし薄物を二十年振りにお茶に着て行く

門司　永島　まち
山そえの夏草のしげみ分け行けば秋つけ顔に女郎花咲きおり

宗像大社献詠 俳句作品集(四十五)

厚狭　篠田南洞
拾いたき流木次ぎつぎ出水かな

東郷　小野淡坡
お下げ髪西瓜提灯橋を行く

津屋崎　溢田しげを
炎天に誰か投げ出すリンゴの芯

津屋崎　井浦良介
実り田の風を背に受け婚約す

津屋崎　浜津鴻浪
銀河濃し使い古した夫婦箸

津屋崎　勝田光一
冷房にパイプを吹かす遠い海

津屋崎　毛利夜潮
縦横にネオンははしり夏の月

津屋崎　安部真佐子
花すゝき子と飲む故郷の水あまし

神幸斎　隣船　俊

碧層呉越渺無涯
神跡繋舟古渡街
七浦漁船雁行輿
秋天晴朗神幸斎

出光佐三一問一答シリーズ

マルクスが日本に生まれていたら

なぜマルクスをとり上げるのか

1、いかなる理由で四十年前に「共産主義のよいところは採れ」と言ったのか

質問　最初になぜ、こういうようなテーマをとり上げたか、ということについて、ちょっと述べてみます。およそ主義とか、思想とかいわれるものが、ひとしく目指すものは、人間の福祉・幸福であり、人間社会の平和ということだろうと思います。マルクスの共産主義思想も、店主の人間尊重の思想も、よりよい人間社会を目標としている点で、志をひとしくしているのではないか、と私たちは思っています。ところが、その思想から生み出された結果はどうかというと、私たちの出光興産は、人間尊重のもとに皆が仲良く愉快に働く大家族集団をつくり出しているが、一方のマルクスの共産主義思想は、世界の至るところに緊張、対立、闘争という姿をかもし出している。同じ人間社会の平和と幸福を願って出発した二つの思想が、結果において、どうしてこんなに極端に違った姿をもたらしたのか、ということが、私たちの日ごろから抱いている疑問です。

今日の世界を見ますと、マルクスの共産主義思想を信奉する国は、現実に世界の三分の一を占めている。しかも自由世界の国々においてさえ、共産主義・社会主義という思想は、非常に根強い勢力をもっているように思われます。敗戦によって、外国色に塗りつぶされた日本も、その例外ではないように思います。このような現実を見るとき、マルクスの共産主義思想は、或る意味では、今日に生きるすべての人が、なんらかの形で、対決を迫られている問題ではないかと思います。ところで、店主は、すでに今から四十年前に、共産主義に対して、はっきりした態度をとられている。すなわち、単に共産主義を否定するのではなく、「いいところは採れ、ただ、日本の皇室・国体を否定する点は不倶戴天の仇である」と言っておられる。そして実際に出光興産という事業経営の中で、共産主義の長所は生かし、またその欠点は克服してきておられます。

これまでもマルクスを批判した人々はいろいろありましたが、それはすべて、ただの議論にすぎなかったようです。店主の場合は、事実でもって回答を与えられているように思われます。

そこで私たちは、マルクスの思想の基本的な問題点をとり出し、それに対する店主の回答を引き出し、そこから多くのものを学びとり、またマルクスの思想をいかに解釈し、それにどのように対処して行くか、ということをいろいろ考えたいと思います。八十年の人生経験と、五十四年の事業体験をもとにして出される、この店主の回答は、われわれ社内の者に対してのみでなく、一般の人々にもぜひ聴いていただきたいと思っております。

出光　ぼくは異論があるんだが、マルクスに現在の世界の混乱の責任を全部押しつけるのは、賛成できんな。マルクスがああいうことを言い出した原因は、資本家の搾取にある。資本家の搾取がなかったならば、マルクスもあんなことは言わなかっただろうと思う。

ぼくも学生時代、大阪で金持が金の奴隷になっている姿を見なかったならば、「黄金の奴隷になるな」というようなことを言って出発はしなかったろうと思うんだ。君らの言い分だと、なんだかマルクスが対立闘争をつくったように言っているけれども、そうじゃない。マルクスがああいうことを言い出したのには、それだけの理由があった。マルクスは、結果においては対立闘争を招いたけれども、狙っていたところは、資本家の搾取をなくそうというところにあった。また事実、今日では、資本家も目ざめて、自らのあり方を変えてきた。その意味においては、マルクスも非常な功績があったのではないかと思う。マルクスの目指す目標が悪いということじゃないんだ。マルクスだけを責めちゃいけない。動機と目標という点では、マルクスとぼくは同じことじゃないかね。ただマルクスは「物の国」に生まれたから、物の分配をめぐって対立闘争する道を歩かせられたということである。ぼくは「人の国」に生まれたから、物に関してはぜいたくを戒めて、お互いに手を握り合って仲良くするという互譲互助の道を歩かせられたと、このようにぼくは思うな。どちらも資本家の搾取と、金持が金の奴隷になっている姿というものが、出発点であった。それらに対して、マルクスもたたかい、ぼくもたたかったということじゃないかな。だからその意味で、マルクスを責めるなら、ぼくも責めよ。(笑)

質問　そこで私たちが非常に注目したいことは、さっき言ったように、店主は、共産主義に対してすでに四十年前に、はっきりした考え方というか、態度をもっておられた点です。その資料を古い順に拾ってみますと、大正十四年にこういうことを言っておられます。

台湾行蓬莱丸船中にて
(大正十四年九月)

欧米における共存共栄は、ついに論議に尽きて、ついにロシアの共産主義を生んだ。世界を脅威する労農政府が○○(日本)を赤化しうるかが問題になった。学者は盛んに論議し、政府はこれが防止に血まなこである。滑稽である。論する者も阻止する者も、自国の本体を究めていない。自分を信じえない。自分で自分がわからない。自信力を失ってうろうろしている。滑稽ではあるまいか。

(つづく)

──宗像藪庵先生百話──

南方 華やかなりし頃

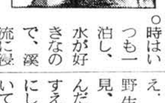
宗像太郎坊

オラン・ウータン

と、その内、片方のオランウータンが降りて、小便をする。床がセメントのため、低みに流れて行って溜る。これを見ていたもう一匹の方が、にやっと笑って降りて行き、両手をついて、口でうけ、一気にきゅーっと完全に飲みほして了う。黒田節の槍ものである。愛情の亢じた、うるわしい姿らしい。どこかの土人で、女が河に小便すると、そこに男が馳けて行き、小便をしたところの河水を飲んで、女の後を追い、愛を乞う人種がいるということもきいた。

オランウータンはスマトラでも全島に棲息するのでなく、アチエ州、その中でもガヨ族が住んでいる山岳地帯にいる。なかなか普通の人では野生のものにお目にかかることはむつかしい。私達は工兵隊であったので、こういうことには恵まれていた。以下は、海老名軍曹の便りによるものである。∧コタチャネよりブランケジャラに向って二粁ばかり行ったところでした。わたしは糧秣輸送のため、古川軍曹指揮のトラックに乗っていましたが、道路上を一匹のオランウータンがゆっくりと歩いているのを見ました。トラックを停めると、驚いて山に這い上ろうとしましたが、古川軍曹が足を捕えて道路上に引きずりおろし、わたしと兵長とで銃で押えつけ、生捕りにしました。四足を一本ずつ、ロープで縛り、トラックのうしろにくくりつけ、ブランケの宿舎に着いて、檻に入れておいたのですが、朝起きて見ると死んでいました。これは友達から殴られたのか、額に拳大の古い傷あとがあり、小学三年生ぐらいの子でしたが、珍らしいので、早速喰ってみようではないかということになり、早速料理、醤油と砂糖で煮て喰べました。喰った者は、わたしと自動車分隊の者三、四人、それにこの小隊長の安○少尉でした。わたしたちは、なんともありませんでしたが、小隊長は全身に蕁麻疹ができて、ものの怪に憑かれたような顔をしていました。やはり人間に近いものの肉は合わないのでしょうかね∨

次に捕ったのは、コタチャネより二〇粁ばかり入ったところの営林署があったムロアである。ここは渓流が横を流れており、わたしがここを通る時はいつも一泊し、水が好きなので、深流に浸ったまま、昼寝をしたものだが、この水を穢すものがあるとすれば、上流に棲む、虎か象か、猿ぐらいのものである。ここから見える麓で、大きいのを兵が射殺した。これらは大概、夫婦連れでいるので、片方をうち殺すと、毎日一回連れが確かこの辺りだったと探しに来る。



一番大きかったのはブランケジャランに、トラックで運んで来た奴だ。アチエ州、オランウータン界の主ではなかったかと思う。これはブランケよりタケゴン側へ五〇粁ばかり入ったところ、樹にいたのを、小銃三発射ちこんで、落したのである。筋肉隆隆として、殊に、上半身、肩の辺りの発達は凄い。わたしの宿舎の横にトラックより放り出したままにしておいたのだが、犬が二十匹ばかり集まって、これを取り囲み、夜通し吠え、眠れなかった。やはり、犬は野生のものだと思った。顔は一見、鼻の下の長い大親分が一杯飲んだような顔をしている。遊蕩のすえか、剛毛ではあるが、まばらにしか生えておらず、鼻は上にむいており、左右の口角より牙が少し覗いていた。足とペニスは、ほんのしるしの程度である。しかし、なかなか、女好きらしく、土民の話によると、人間の女を攫って行くという。攫われるとなかなか、監視の目がきびしくて逃げられない。あれ達の片腕は私達が両手を拡げた程あり、悠悠と大人一人を抱いて樹から樹へ飛び移って行く。

(つづく)

てんびん棒半生の記 (二)

和田弥市

当時私は日鉄の職長でした。部下の一人が外出、私の家を見て今すぐ退社して加勢すれば荷物が出せると知らせましたが、軍の仕事の指導者として、部下八十名、弱い女工十二名の事を考える時、私事で退社も出来ず、全員ひなんさせ、高い所から見下せば我が家は健在でした。それから二時間後むしやきになりました。夕方五時に退社して家族の無事な姿を見てだき合って無事を喜びました。それから前の空地に「むしろ」を張って、小屋を作って三日程考えましたが、あまりにも無残な姿と打のめされた家具、商品、住むに家なく、一生をだめにしましたが、五人の子供の行末を考えて、勇気を出して日鉄をやめる決心をしました、重要な人材とか云われて仲々やめさせませんでしたが、課長さんや上司の方と口げんかして今となってやめる人はどしどしやめさせなさい、戦時と平和産業の鉄の使用量は½になります。人員整理も近日行われる、上役が多すぎる、コストが高すぎる等申して、退社する事が出来ました。

半年目に私の申した様になりました。私も勤続二十七年満五十才で恩給もつきましたが、末娘が体が弱いので皆やりました。恩給で生活して居たら人生気力が小線となり孫の子守や寺参りで、今頃はあの世でしょう。私も又再出発で八幡の荒生田市場で鮮魚店を開業―日鉄クラブ、西鉄クラブ、河内クラブ、市内高級料亭等納入、地方上得意も出来て順調な歩みをつづけて居ります。思う様に行かぬのは私六十六才の時毎朝三時に起て、(三十五年十二月)下関に仕入れに行きましたが、十二月中頃大変寒い日でした。下関の唐戸市場はコンクリートの上は、常時氷水の流しばなしの上を、長ゴムクツで歩いて居る内に次第次第に冷え込み、下半身が動かなくなり、神経痛がいたみ出して一歩も歩けなくなり倒れました。

六十五才の時でした。自宅に帰り、三日位して、人間らしくなりましたが、最早朝三時に起きて、下関に仕入れに行く事は無理であり、妻にゆずり、長男も加勢して家業は順調に進んで居りましたが、一難去って又一難、長女の嫁入先が若松で、第一石油(株)を設立して、海上の油屋をして居りましたが、三十六年一月四日黒字倒産一歩前となり、最小限二百万円の必要にせまられ、手形の決済が出来ず、出光本社の監査役、私の小学校時代の友人に相談申上げ心良く引受けられて三百万円棚上と、十ケ月延払の約束が出来て喜こんで帰宅、若松の店に知らせました。立て直しに懸命の時、良き営業を続けて居ります時、今一度大事をふんで四百万の棚上げにしてもらい、楽な営業をして居ります時、「新出光の三十五周年祝賀」として、現金が必要だろうと金弐十五万を戴いて娘は涙をこぼして喜こんで居りました。本社の田尻取締役の整理条件として、月四三〇万以上の売上げが必要と申渡されましたが、七〇〇万円と上昇し、現在四十年、一月前後は九百万円を上下して居ります。配給船も三十五tの中形で最大の馬力で休む間も無く上昇を続けて居ります。

又老人の私も、三十六年一月～六月迄でぶらぶらして居る内に、出光泰亮殿や、出光一家のおかげで、和田海運(株)を三十六年九月十日に設立して、出光タンカーの運営をさせて戴いて居ります。かせげどもかせげども我が暮し楽にならずのように、私五十年間以上、内三十年間は二人役働きましたが、仲々うまく行きませんでしたが、あきらめは禁物です。助けの神、光明が六十六才の時来ました。それは出光一家のおかげでした。一家を魚屋で終る私が、和田海運を設立して、今も尚喜と勇気を出して、楽しく明るく毎日を過して居ります。鮮魚店の方も順調な歩を続けて居ります。

私が借家を求めたのが面白いです。昭和十三年家主の渡辺さんが申されるのには、日鉄の工員で延坪百二十坪の大きな家で、何をなさるか、広すぎはせぬかと心配そうな顔でした。私は其の時、普通では貸してもらえぬと思い、大風呂敷を広げて申しました。せまいが何とか辛棒しましょうと申して交渉する五回目でした。

小倉大会社から交渉中でしたが私は申しました。一工員でもやりますよ、一生懸命商売に打込んで家賃は約束の二日前に必らず持参致しましょう。何と思われたか、側で奥様が突然私に貸しますと云われて、御主人も私も実はびっくり致しました。

公正役場に行って書類三通入るのを私は二通にして下さいと申しました。私の控は入りません。又見る必要もありません。要は間違なく期日前に持参致しますと申して最後迄で実行致しました。

(つづく)

ジムカーナ

自動車愛好者が笑いの中に親睦し、ルールを守るスポーツ精神をやしない、運転腕くらべから高度の運転技術を身につける……それがジムカーナです。

参考までにその他のジムカーナの競技をご紹介しましょう。

スプーンレース
ドライバーが右手にスプーンを持ちスポンジボールが落ちないようにコースを一周する。

椅子取りゲーム
五〜六台の車が音楽に合わせて円周を回わる。音楽が止まったら車を停め、円の中央の椅子に走ってすわる。椅子は車の数より一つ少ないので、かけそこなった人は失格。一回ごとに椅子を減らして二人のドライバーが勝敗を決めるまでつづける。

メリーゴーラウンド
助手が円の中心の重石からひっぱった細い綱を持ち円周を車が回わる。前進・後退・前進してタイムを計る。もちろん重石を落したり円周の中にふみこんだら減点。

玉ころがし
竹製に紙をはった大きな玉を、スタートからゴールまで自動車でつきころがしながら走行。

消火作業
玉入れ競争と同じだが、円周の中心においた蝋燭を、水鉄砲で消す。

ポロ
助手席からアイスホッケーのスティックでボールをころがし、コースを一周する。

ホットプラグレース
円周の中央の机にプラグを一本おく。合図とともに円を一周したら、車からおりてプラグの一本を抜き、円の中央の机に走り、プラグをとりかえて、エンジンにさしこみ、また一周する。プラグを四本変えてしまう、タイムを計る。

競馬レース
スタートからゴールまでを二〇の区画に分割。五〜六台ずつ、ゴールにいる児童にサイコロを振らせ、出た目だけ進み、ちょうどゴールに達した順で決める。端数はゴールからその数だけ戻る。観衆のいる時は連勝式の投票をして賞品を出す。

その他、まだいくらでも面白いのがあると思います。みなさんで考えてみてください。